

する。それが与えられたときは、素晴らしい傑作もでき、子どもの創作力もぐんと上昇する。しかし、それがいつも許されるはずがない。お金のかからないもので、よい材料とよい設備はあるといっても、やはり考え込むのが現実ではないだろうか。

二十七人は、おのれの勝手なことをして遊びたがる。どうしても庭に出たい、どうしても積木をやめられない、「先生、ぼくの絵のお話聞いてね。」といって、なかなか離してくれない。そのうちに、どこかでけんかが始まる。その喧嘩のグループは、特に別の部屋で話合って、自分たちで解決させたいが、さてその間庭の監督は大丈夫だろうか、とまったく忙しくてやりきれない。みんなが仕事に熱中しているのにポツンととり残された子ども、その子に今声をかけ、気長に誘導するのに良いチャンスだが、製作の助言をせがまれれば、それも捨てておけない。そうした中で記録もとりたい。

こんなことは、クラスだけで解決するのではなく、園全体が協力すべきだといわれるかもしれないが、私たちはできるかぎり力をあわせている。しかも手が足りないことは、環境設定と受持人数の問題ではなかろうか。まったくの自由保育でない、コア型ということも知らないではない。が、何といっても、心理的、個別的に子どもをみていくには、今日の幼稚園のありかたに考慮すべき点があると思われる。とり残されたり、下積みになつたりする子がないために、ひとりひとりを大切に扱う理想的な自由保育の方法をさらに深く研究することが必要である。

(幼稚園教諭・長野)

保育日誌をかえりみて

鈴木輝子

四月十日(うすぐもり)

朝からうすら寒い天気。母親に手を引かれた元気な子どもたちでホールはいっぱいになる。

はじめての勤めのためか不安が先にきておちつかなかつたが元気な子どもの顔を見ているうちに何かしら胸があつくなつてくるようないがした。今日からこの子どもたちの良き友となることが出来るようとに祈る。

四月十一日(曇)

「先生おはよう」とカバンを自分のカバンかけに掛けるとすぐにブランコに乗りにいく子ども、

母親にしがみつき離れられない子ども、

「お家に帰る」と泣きだす子どもでたいへんな騒ぎである。これらの子どもをやつとなだめて室に入れ、ほっとする。どの子どもも緊張した顔で私を見つめている。ひとりひとり名前を呼ぶごとに可愛い声で返事をする。ひとりの子どもだけが返事が出来ずにうつむいていた。

礼拝前お手洗いいかせる。皆ばたばたかけだしていき、水道の前で手を洗いはじめた。どうしたのだろうと思っていると、手を洗い終った子が「先生おしつこしてきてもいい?」と、私ははじめから

おしつこもふくめて「お手洗にいきましょう」と言ったのだがはじめから失敗である。

子どもの理解できることばで話さなければと反省させられる。

四月二三日（くもり）

子どもの表情も明るく元気になってきた。

今日は月曜日のためかおちつきがなくさわがしい。

礼拝のとき、サークルのまん中にひとりの子どもがとび出したら他の子どももまねをし、やっと静かになった。礼拝がめちゃめちゃになってしまった。

そのときの子どもの状態に応じたプログラムでなければと思う。

五月十日（晴）

ちょうど入園より一ヶ月

今まで私のそばにばかりついていた子どもがひとり、ひとりと減り、子どもたちの遊びの中へ入ってゆく。はじめは返事もできなかつた子どもも先週より返事ができるようになってこちらが誘導して

やれば遊びに加わり楽しそうである。

一造ちゃんは朝から一しょに積木をしたりすべり台に乗つたりしている。どうやらお友だちになつたらしい。

一造ちゃんはバスで通園している。

帰りにバス通園の子どもたちと一緒に停留所まで送つていった。ところがついてみると一造ちゃんの姿が見えない。方々捜したあげく、バス停留所のちかくにある健司ちゃんの家にいることがわかった。もうお友だちと道草することもおぼえたのだろうか。明日からこのようなことのないようにしなければならない。

もう一学期を迎えているが今までを振りかえってみると、入園の

こ の 頃 思 う こ と

田 中 阿 い

社会的に相当な働きをなされている方々の中に、幼稚園は贅沢な教育機関であるという考え方の底に持つたお話を、しばしばききます。そんなとき、近くの場合には、「そんなに割切らないでください。」と注文しますが、遠くの場合は「幼稚園教育のみち今なおわれし」と推察して、この教育の仕事にたずさわる者たちひとりびとりの情熱をかきたてたいあせりさえ感じます。

九月中旬、東海地区の国公私立幼稚園合同で第六回東海幼稚園教育研究協議会が、長野県長野市において開かれましたが、その協議題の中にも、「幼稚園教育を向上させるために、地域社会との連絡をどのようにすべきか。」という問題がありました。自分のながい小

ときは元気な子どもがあつたにしても何かしら不安なようすだった子どもたちが、この四ヶ月間にどの子も明るく笑顔でもつて登園できるようになった。やっと幼稚園生活にも慣れて、これからそれぞの個性を發揮するのだろう。

今まで小さなことながらいろいろな問題にあつたけれども、その場で解決されたものも今なお解決されない問題もあり、自己の足りなさを身にしみて感じるが私自身たえず新鮮な知識を吸収し、与えられた子どもに對して使命をまつとうしたいものと思つてゐる。

（幼稚園教諭・仙台）